

【概要】

平成29年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（北海道）

※ 本調査は、平成29年度間の北海道の公立学校における暴力行為、いじめ、不登校、中途退学の状態を平成30年度に調査し、公表するものです。また、本数値には、札幌市立学校も含まれています。

■基本となる学校数及び児童生徒数

	公立学校総数			在籍児童生徒数		
	平成28年度	平成29年度	前年度比	平成28年度	平成29年度	前年度比
小学校	1,069校	1,057校	▲12校	246,491人	243,878人	▲2,613人
中学校	605校	596校	▲9校	130,677人	127,570人	▲3,107人
高等学校	235校	234校	▲1校	102,823人	100,535人	▲2,288人
小・中・高等学校の計	1,909校	1,887校	▲22校	479,991人	471,983人	▲8,008人
特別支援学校	68校	70校	2校	5,550人	5,682人	132人
合計	1,977校	1,957校	▲20校	485,541人	477,665人	▲7,876人

※平成29年5月1日現在の数値である。

ただし、高等学校在籍生徒数には、高等学校通信制課程の在籍者数(28年度は3,218人、29年度は2,928人)も計上されている。

※いじめにおける高等学校の学校総数は、併置校を全日制、定時制、通信制それぞれを1校で計上し、267校となる。

■結果の概要

1 公立小・中学校、高等学校の暴力行為の発生件数

	平成28年度		平成29年度		前年度比	
	発生件数	1,000人当たりの発生件数	発生件数	1,000人当たりの発生件数	発生件数	1,000人当たりの発生件数
小学校	372件	1.5	130件	0.5	▲242件	▲1.0
中学校	424件	3.2	350件	2.7	▲74件	▲0.5
高等学校	186件	1.8	186件	1.9	0件	0.1
合計	982件	2.0	666件	1.4	▲316件	▲0.6

2 公立小・中学校、高等学校、特別支援学校のいじめの認知件数

	平成28年度		平成29年度		前年度比	
	認知件数	1,000人当たりの認知件数	認知件数	1,000人当たりの認知件数	認知件数	1,000人当たりの認知件数
小学校	5,185件	21.0	9,256件	38.0	4,071件	17.0
中学校	1,899件	14.5	2,319件	18.2	420件	3.7
高等学校	456件	4.4	518件	5.2	62件	0.8
特別支援学校	22件	4.0	36件	6.3	14件	2.3
合計	7,562件	15.6	12,129件	25.4	4,567件	9.8

3 公立小・中学校の不登校児童生徒数

	平成28年度		平成29年度		前年度比	
	不登校児童生徒数	1,000人当たり	不登校児童生徒数	1,000人当たり	不登校児童生徒数	1,000人当たり
小学校	1,031人	4.2	1,196人	4.9	165人	0.7
中学校	3,964人	30.3	4,370人	34.3	406人	4.0
合計	4,995人	13.2	5,566人	15.0	571人	1.8

4 公立高等学校の不登校生徒数（通信制高校の在籍者を除く。）

	平成28年度	平成29年度	前年度比
不登校生徒数	754人	792人	38人
1,000人当たり	7.6	8.1	0.5

5 公立高等学校の中途退学者数

	平成28年度	平成29年度	前年度比
中途退学者数	1,534人	1,491人	▲43人
中途退学率	1.5%	1.5%	0.0

公立小・中学校、高等学校の暴力行為

1 暴力行為の発生件数の推移

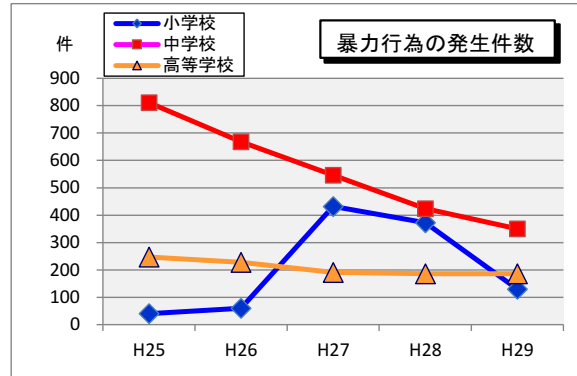
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
小学校	40	60	432	372	130
中学校	811	668	546	424	350
高等学校	247	228	191	186	186
計	1,098	956	1,169	982	666

<経年変化>

中学校においては、平成24年度から減少傾向にあり、小学校においては平成27年度に急増したが、平成28年度から減少している。高等学校においては、平成27年度から大きな変化は見られない。

<前年度との比較>

- 小学校 ～前年度に比べ、242件減少している。
- 中学校 ～前年度に比べ、74件減少している。
- 高等学校～前年度と同数である。
- 全体 ～前年度に比べ、316件減少している。



【暴力行為の定義】「暴力行為」を「自校の児童生徒が、故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為」として調査。本調査においては、「当該暴力行為によってけががあるかないかといったことや、けがによる病院の診断書、被害者による警察への被害届の有無などにかかわらず」、暴力行為に該当するものを全て対象とすることとしている。

2 学校種別暴力行為の発生学校数及び発生件数

		平成29年度			平成28年度		
		発生学校数		発生件数	発生学校数		発生件数
		学校数	発生率		学校数	発生率	
小学校	学校管理下	35校	3.3%	115件	36校	3.4%	354件
	学校管理下以外	6校	0.6%	15件	11校	1.0%	18件
	小計	—	—	130件	—	—	372件
中学校	学校管理下	81校	13.6%	324件	107校	17.7%	404件
	学校管理下以外	23校	3.9%	26件	16校	2.6%	20件
	小計	—	—	350件	—	—	424件
高等学校	学校管理下	69校	29.5%	171件	69校	29.4%	167件
	学校管理下以外	12校	5.1%	15件	16校	6.8%	19件
	小計	—	—	186件	—	—	186件
合計	学校管理下	185校	9.8%	610件	212校	11.1%	925件
	学校管理下以外	41校	2.2%	56件	43校	2.3%	57件
	小計	—	—	666件	—	—	982件

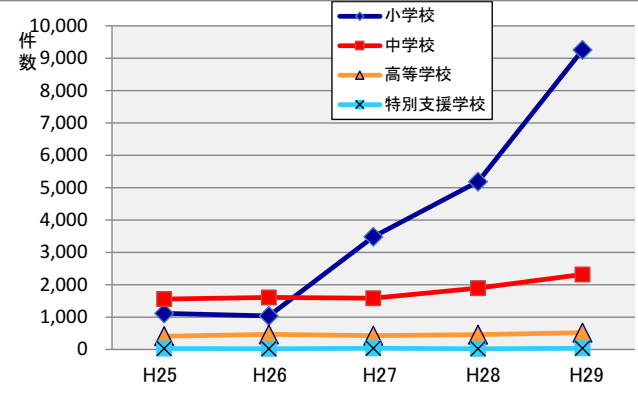
※発生率＝（発生学校数／公立学校総数）×100

3 暴力行為の種別発生学校数及び発生件数

		平成29年度		平成28年度	
		発生学校数	発生件数	発生学校数	発生件数
対教師暴力	小学校	15校	18件	20校	150件
	中学校	22校	35件	29校	41件
	高等学校	16校	20件	17校	26件
	合計	53校	73件	66校	217件
生徒間暴力	小学校	26校	91件	27校	119件
	中学校	69校	203件	89校	265件
	高等学校	70校	127件	73校	126件
	合計	165校	421件	189校	510件
対人暴力	小学校	2校	2件	5校	5件
	中学校	12校	10件	7校	9件
	高等学校	3校	4件	4校	4件
	合計	17校	16件	16校	18件
器物損壊	小学校	10校	19件	16校	98件
	中学校	30校	102件	43校	109件
	高等学校	21校	35件	20校	30件
	合計	61校	156件	79校	237件

公立小・中学校、高等学校、特別支援学校のいじめ

1 いじめの認知件数の推移



	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
小学校	1,119 4.3	1,036 4.1	3,486 13.9	5,185 21.0	9,256 38.0
中学校	1,557 11.6	1,607 12.1	1,588 12.0	1,899 14.5	2,319 18.2
高等学校	409 3.7	464 4.3	429 4.1	456 4.4	518 5.2
特別支援学校	33 6.4	25 4.8	34 6.3	22 4.0	36 6.3
計	3,118 6.1	3,132 6.2	5,537 11.2	7,562 15.6	12,129 25.4

※ 上段は認知件数、下段は1,000人当たりの認知件数

※本調査におけるいじめの定義

個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立って行うものとする。

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

「いじめ」の中には、犯罪行為として取り扱われるべきと認められ、早期に警察に相談することが重要なものや、児童生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるような、直ちに警察に通報することが必要なものが含まれる。

これらについては、教育的な配慮や被害者の意向への配慮の上で、早期に警察に相談・通報し、警察と連携した対応を取ることが必要である。

<経年変化>

いじめの認知件数は、平成27年度から大幅に増加している。校種別では、小学校の増加が顕著であるが、中学校・高等学校についても前年度に比べ増加した。

<前年度との比較>

- 小学校 ~前年度に比べ、4071件増加している。
- 中学校 ~前年度に比べ、420件増加している。
- 高等学校 ~前年度に比べ、62件増加している。
- 特別支援学校 ~前年度に比べ、14件増加している。
- 全体 ~前年度に比べ、4567件増加している。

2 学校種別いじめの認知学校数

	認知学校数			
	学校数		認知率	
	平成29年度	平成28年度	平成29年度	平成28年度
小学校	538校	439校	50.9%	41.1%
中学校	349校	314校	58.6%	51.9%
高等学校	147校	138校	55.1%	51.3%
特別支援学校	18校	9校	25.7%	13.2%

※ 認知率＝（認知学校数／公立学校総数）×100

3 いじめの解消状況

	いじめが解消しているもの（解消率）	
	平成29年度	平成28年度
小学校	97.3%	97.8%
中学校	93.4%	96.9%
高等学校	98.1%	98.7%
特別支援学校	91.7%	100.0%
計	96.5%	97.7%

4 いじめ発見のきっかけ（12項目から一つの項目）

	順位	いじめ発見のきっかけ			
		平成29年度		平成28年度	
		項目	割合	項目	割合
小学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	78.4%	アンケート調査など学校の取組により発見	68.1%
	②	本人からの訴え	11.2%	本人からの訴え	18.1%
	③	学級担任が発見	5.7%	学級担任が発見	6.5%
	④	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	3.0%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	4.7%
	⑤	児童生徒（本人を除く）からの情報	0.8%	児童生徒（本人を除く）からの情報	1.0%
	⑥	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.4%	学級担任以外の教職員が発見	0.6%
	⑦	学級担任以外の教職員が発見	0.3%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.6%
	⑧	養護教諭が発見	0.1%	養護教諭が発見	0.1%
	⑨	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.1%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.1%
	⑩	スクールカウンセラー等の相談員が発見	0.02%	地域の住民からの情報	0.1%
	⑪	その他（匿名による投書など）	0.02%	スクールカウンセラー等の相談員が発見	0.0%
	⑫	地域の住民からの情報	0.0%	その他（匿名による投書など）	0.0%
中学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	61.1%	アンケート調査など学校の取組により発見	52.8%
	②	本人からの訴え	19.9%	本人からの訴え	25.9%
	③	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	7.3%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	8.3%
	④	学級担任が発見	5.9%	学級担任が発見	7.3%
	⑤	児童生徒（本人を除く）からの情報	2.9%	児童生徒（本人を除く）からの情報	2.4%
	⑥	学級担任以外の教職員が発見	1.1%	学級担任以外の教職員が発見	1.6%
	⑦	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	1.1%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.7%
	⑧	スクールカウンセラー等の相談員が発見	0.3%	養護教諭が発見	0.4%
	⑨	養護教諭が発見	0.2%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.4%
	⑩	地域からの住民からの情報	0.1%	その他（匿名による投書など）	0.1%
	⑪	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.1%	スクールカウンセラー等の相談員が発見	0.1%
	⑫	その他（匿名による投書など）	0.04%	地域の住民からの情報	0.1%

	順位	いじめ発見のきっかけ			
		平成29年度		平成28年度	
高等学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	68.5%	アンケート調査など学校の取組により発見	68.4%
	②	本人からの訴え	13.7%	本人からの訴え	15.8%
	③	学級担任が発見	8.9%	児童生徒（本人を除く）からの情報	5.5%
	④	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	5.4%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	3.9%
	⑤	学級担任以外の教職員が発見	1.5%	学級担任が発見	3.1%
	⑥	児童生徒（本人を除く）からの情報	1.0%	学級担任以外の教職員が発見	1.8%
	⑦	養護教諭が発見	0.6%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.9%
	⑧	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.2%	養護教諭が発見	0.7%
	⑧	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.2%	スクールカウンセラー等の相談員が発見	0.0%
	////	スクールカウンセラー等の相談員が発見	0.0%	地域の住民からの情報	0.0%
////	地域の住民からの情報	0.0%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.0%	
////	その他（匿名による投書など）	0.0%	その他（匿名による投書など）	0.0%	
特別支援学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	61.1%	アンケート調査など学校の取組により発見	59.1%
	②	本人からの訴え	19.4%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	13.6%
	③	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	8.3%	学級担任以外の教職員が発見	9.1%
	④	学級担任が発見	5.6%	本人からの訴え	9.1%
	⑤	学級担任以外の教職員が発見	2.8%	学級担任が発見	4.5%
	⑤	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	2.8%	児童生徒（本人を除く）からの情報	4.5%
	////	養護教諭が発見	0.0%	養護教諭が発見	0.0%
	////	スクールカウンセラー等の相談員が発見	0.0%	スクールカウンセラー等の相談員が発見	0.0%
	////	児童生徒（本人を除く）からの情報	0.0%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.0%
	////	地域の住民からの情報	0.0%	地域の住民からの情報	0.0%
////	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.0%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.0%	
////	その他（匿名による投書など）	0.0%	その他（匿名による投書など）	0.0%	

5 いじめの態様（9項目から複数選択）

	順位	いじめの態様			
		平成29年度		平成28年度	
小学校	①	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	62.1%	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	64.0%
	②	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	30.1%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	29.1%
	③	仲間はずれ、集団による無視をされる。	21.0%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	20.8%
	④	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	8.2%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	6.8%
	⑤	その他	3.8%	ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。	3.8%
	⑥	ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。	3.3%	その他	3.7%
	⑦	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	2.6%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	3.5%
	⑧	パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	1.3%	パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	1.3%
	⑨	金品をたかられる。	0.2%	金品をたかられる。	0.2%
中学校	①	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	74.3%	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	72.6%
	②	仲間はずれ、集団による無視をされる。	16.3%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	19.2%
	③	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	13.4%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	15.5%
	④	パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	8.7%	パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	9.6%
	⑤	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	8.0%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	6.7%
	⑥	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	2.9%	その他	2.8%
	⑦	その他	1.6%	ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。	2.7%
	⑧	ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。	1.3%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	2.4%
	⑨	金品をたかられる。	0.2%	金品をたかられる。	0.3%
高等学校	①	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	70.1%	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	68.6%
	②	仲間はずれ、集団による無視をされる。	18.1%	パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	18.4%
	③	パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	16.4%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	16.2%
	④	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	7.3%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	10.1%
	⑤	その他	6.2%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	6.6%
	⑥	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	4.4%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	4.6%
	⑦	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	3.9%	その他	3.9%
	⑧	金品をたかられる。	1.5%	ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。	3.3%
	⑨	ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。	1.2%	金品をたかられる。	1.3%
特別支援学校	①	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	63.9%	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	45.5%
	②	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	36.1%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	27.3%
	③	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	13.9%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	13.6%
	④	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	8.3%	パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	13.6%
	④	パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	8.3%	ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。	9.1%
	⑥	仲間はずれ、集団による無視をされる。	5.6%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	9.1%
	⑥	ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。	5.6%	その他	4.5%
	⑥	金品をたかられる。	5.6%	金品をたかられる。	0.0%
	⑥	その他	5.6%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	0.0%

公立小・中学校の不登校

1 公立小・中学校における理由別長期欠席者数（上段）と1,000人当たりの理由別長期欠席者数（下段）

	平成29年度						平成28年度					
	不登校	うち90日以上欠席	経済的理由	病気	その他	計	不登校	うち90日以上欠席	経済的理由	病気	その他	計
小学校	1,196	708	0	583	338	2,117	1,031	626	0	635	463	2,129
1,000人当たり	4.9	2.9	0.0	2.4	1.4	8.7	4.2	2.5	0.0	2.6	1.9	8.6
中学校	4,370	3,060	0	783	221	5,374	3,964	2,778	0	724	401	5,089
1,000人当たり	34.3	24.0	0.0	6.1	1.7	42.1	30.3	21.3	0.0	5.5	3.1	38.9
計	5,566	3,768	0	1,366	559	7,491	4,995	3,405	0	1,359	864	7,218
1,000人当たり	15.0	10.1	0.0	3.7	1.5	20.2	13.2	9.0	0.0	3.6	2.3	19.1

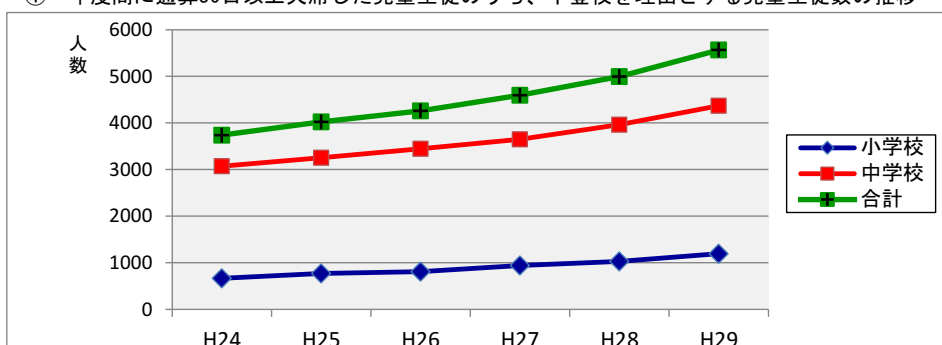
※年度間に連続又は断続して30日以上欠席した児童生徒数を理由別に調査。

- 小学校 ~昨年度に比べ、165人増加（1,031→1,196）している。
- 中学校 ~昨年度に比べ、406人増加（3,964→4,370）している。
- 全体 ~昨年度に比べ、571人増加（4,995→5,566）している。

2 不登校の経年変化

(1) 不登校の状況

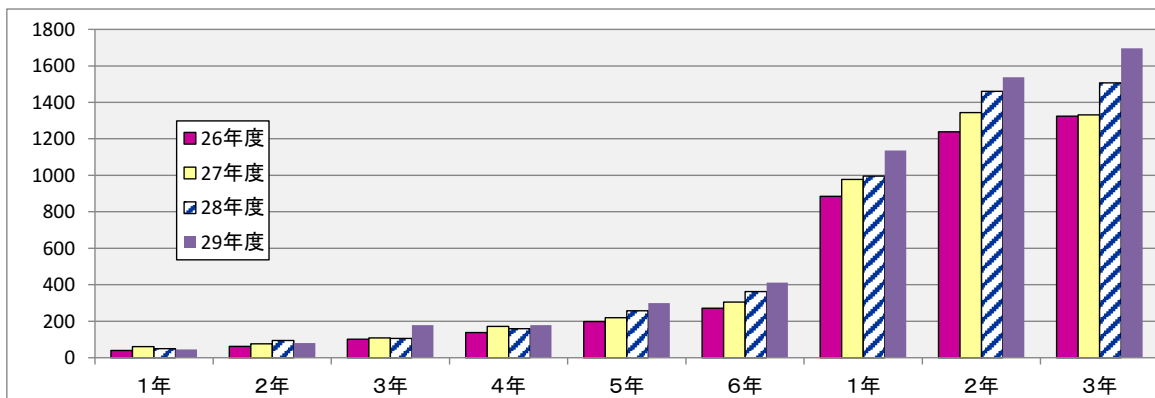
① 年度間に通算30日以上欠席した児童生徒のうち、不登校を理由とする児童生徒数の推移



② 不登校児童生徒数（上段）と1,000人当たりの不登校児童生徒数（下段）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
小学校	667	770	812	942	1,031	1,196
1,000人当たり	2.5	3.0	3.2	3.8	4.2	4.9
中学校	3,073	3,255	3,447	3,653	3,964	4,370
1,000人当たり	22.4	24.2	26.0	27.7	30.3	34.3
合計	3,740	4,025	4,259	4,595	4,995	5,566
1,000人当たり	9.3	10.2	11.0	12.0	13.2	15.0

(2) 過去4年間の学年別不登校児童生徒数の推移



学年	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
26年度	40	63	101	138	198	272	885	1,238	1,324
27年度	61	77	108	172	219	305	978	1,344	1,331
28年度	50	95	106	159	258	363	996	1,461	1,507
29年度	45	81	179	179	300	412	1,136	1,538	1,696

3 不登校の要因

(1) 公立小学校

分類	区分	(a) 分類別 児童数	学校に係る状況							家庭に係る 状況	左記に該当 なし	
			い じ め	ぐ 友 い る 人 じ め 問 題 係 を 除 め く	題 係 教 を 職 員 ぐ と の 問 題	学 業 の 不 振	安 進 路 に 係 る 不	不 部 ク ラ ブ 活 動 等 活 動 の	題 等 学 を 校 の ぐ き ま 問 り			不 学 入 適 進 級 転 編 の 入
			「学校における人間関係」に課題を抱えている。	172	1 0.6%	100 58.1%	27 15.7%	20 11.6%	2 1.2%			3 1.7%
		14.4%	100.0%	47.2%	54.0%	10.6%	16.7%	60.0%	28.6%	14.6%	5.6%	8.1%
「あそび・非行」の傾向がある。	8	0 0.0%	1 12.5%	1 12.5%	3 37.5%	0 0.0%	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%	7 87.5%	0 0.0%	
		0.7%	0.0%	0.5%	2.0%	1.6%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	1.0%	0.0%
「無気力」の傾向がある。	310	0 0.0%	21 6.8%	6 1.9%	81 26.1%	1 0.3%	0 0.0%	5 1.6%	12 3.9%	244 78.7%	18 5.8%	
		25.9%	0.0%	9.9%	12.0%	42.9%	8.3%	0.0%	17.9%	13.5%	34.4%	12.2%
「不安」の傾向がある。	444	0 0.0%	82 18.5%	14 3.2%	70 15.8%	9 2.0%	2 0.5%	9 2.0%	40 9.0%	248 55.9%	60 13.5%	
		37.1%	0.0%	38.7%	28.0%	37.0%	75.0%	40.0%	32.1%	44.9%	35.0%	40.5%
「その他」	262	0 0.0%	8 3.1%	2 0.8%	15 5.7%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.5%	24 9.2%	170 64.9%	58 22.1%	
		21.9%	0.0%	3.8%	4.0%	7.9%	0.0%	0.0%	14.3%	27.0%	24.0%	39.2%
計(b)		1,196 100.0%	1 0.1%	212 17.7%	50 4.2%	189 15.8%	12 1.0%	5 0.4%	28 2.3%	89 7.4%	709 59.3%	148 12.4%

(注1) 「分類」については、「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した児童生徒全員につき、主たる要因を一つ選択。

(注2) 「区分」については、複数回答可。「分類」で回答した要因の理由として考えられるものを「学校に係る状況」「家庭に係る状況」より全て選択。なお、学校及び家庭に係る状況に当てはまるものがない場合は、「左記に該当なし」を選択する。

(注3) 「家庭に係る状況」とは、家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不和等が該当する。

(注4) 中段は、各区分における「分類別児童生徒数(a)」に対する割合。下段は、各区分における区分の「計(b)」に対する割合。

(2) 公立中学校

分類	区分	(a) 分類別 生徒数	学校に係る状況							家庭に係る 状況	左記に該当 なし	
			い じ め	ぐ 友 い る 人 じ め 問 題 係 を 除 め く	題 係 教 を 職 員 ぐ と の 問 題	学 業 の 不 振	安 進 路 に 係 る 不	不 部 ク ラ ブ 活 動 等 活 動 の	題 等 学 を 校 の ぐ き ま 問 り			不 学 入 適 進 級 転 編 の 入
			「学校における人間関係」に課題を抱えている。	969	0 0.0%	591 61.0%	64 6.6%	129 13.3%	30 3.1%			46 4.7%
		22.2%	—	47.5%	54.2%	13.1%	16.4%	43.0%	15.6%	21.3%	9.4%	8.0%
「あそび・非行」の傾向がある。	150	0 0.0%	31 20.7%	7 4.7%	43 28.7%	1 0.7%	5 3.3%	36 24.0%	5 3.3%	69 46.0%	9 6.0%	
		3.4%	—	2.5%	5.9%	4.4%	0.5%	4.7%	56.3%	1.2%	4.9%	1.7%
「無気力」の傾向がある。	1,233	0 0.0%	158 12.8%	11 0.9%	408 33.1%	63 5.1%	21 1.7%	12 1.0%	80 6.5%	545 44.2%	141 11.4%	
		28.2%	—	12.7%	9.3%	41.5%	34.4%	19.6%	18.8%	19.1%	38.8%	26.4%
「不安」の傾向がある。	1,303	0 0.0%	412 31.6%	25 1.9%	306 23.5%	72 5.5%	31 2.4%	2 0.2%	150 11.5%	379 29.1%	127 9.7%	
		29.8%	—	33.1%	21.2%	31.2%	39.3%	29.0%	3.1%	35.9%	27.0%	23.7%
「その他」	715	0 0.0%	51 7.1%	11 1.5%	96 13.4%	17 2.4%	4 0.6%	4 0.6%	94 13.1%	280 39.2%	215 30.1%	
		16.4%	—	4.1%	9.3%	9.8%	9.3%	3.7%	6.3%	22.5%	19.9%	40.2%
計(b)		4,370 100.0%	0 0.0%	1,243 28.4%	118 2.7%	982 22.5%	183 4.2%	107 2.4%	64 1.5%	418 9.6%	1,405 32.2%	535 12.2%

【割合の計算例】 中段: $\frac{215}{715} \times 100 = 30.1\%$

下段: $\frac{215}{535} \times 100 = 40.2\%$

(3) 公立小・中学校合計

分類	区分	(a) 分類別 児童生徒数	学校に係る状況							家庭に係る状況	左記に該当なし		
			いじめ	ぐ友い る人 間関 係を 除め く	題係教 を職 め員 ぐる との 問関	学業 の 不振	安進 路に 係る 不	不部 適活 応動 等活 動の	クラ ブ活 動の			題等学 を校の めぐる きま 問り	不学入 適進、 転編 級の入
「学校における人間関係」に課題を抱えている。		1,141	1	691	91	149	32	49	18	102	172	55	
			0.1%	60.6%	8.0%	13.1%	2.8%	4.3%	1.6%	8.9%	15.1%	4.8%	
		20.5%	100.0%	47.5%	54.2%	12.7%	16.4%	43.8%	19.6%	20.1%	8.1%	8.1%	
「あそび・非行」の傾向がある。		158	0	32	8	46	1	5	38	5	76	9	
			0.0%	20.3%	5.1%	29.1%	0.6%	3.2%	24.1%	3.2%	48.1%	5.7%	
		2.8%	0.0%	2.2%	4.8%	3.9%	0.5%	4.5%	41.3%	1.0%	3.6%	1.3%	
「無気力」の傾向がある。		1,543	0	179	17	489	64	21	17	92	789	159	
			0.0%	11.6%	1.1%	31.7%	4.1%	1.4%	1.1%	6.0%	51.1%	10.3%	
		27.7%	0.0%	12.3%	10.1%	41.8%	32.8%	18.8%	18.5%	18.1%	37.3%	23.3%	
「不安」の傾向がある。		1,747	0	494	39	376	81	33	11	190	627	187	
			0.0%	28.3%	2.2%	21.5%	4.6%	1.9%	0.6%	10.9%	35.9%	10.7%	
		31.4%	0.0%	34.0%	23.2%	32.1%	41.5%	29.5%	12.0%	37.5%	29.7%	27.4%	
「その他」		977	0	59	13	111	17	4	8	118	450	273	
			0.0%	6.0%	1.3%	11.4%	1.7%	0.4%	0.8%	12.1%	46.1%	27.9%	
		17.6%	0.0%	4.1%	7.7%	9.5%	8.7%	3.6%	8.7%	23.3%	21.3%	40.0%	
計 (b)		5,566	1	1,455	168	1,171	195	112	92	507	2,114	683	
		100.0%	0.02%	26.1%	3.0%	21.0%	3.5%	2.0%	1.7%	9.1%	38.0%	12.3%	

4 不登校児童生徒への指導結果状況

	小学校				中学校				計			
	人数		不登校児童に対する比率		人数		不登校生徒に対する比率		人数		不登校児童生徒に対する比率	
	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28
指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒	335	291	28.0%	28.2%	1,032	971	23.6%	24.5%	1,367	1,262	24.6%	25.3%
指導中の児童生徒	861	740	72.0%	71.8%	3,338	2,993	76.4%	75.5%	4,199	3,733	75.4%	74.7%
うち登校に至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童生徒	240	209	20.1%	20.3%	855	756	19.6%	19.1%	1,095	965	19.7%	19.3%
計	1,196	1,031			4,370	3,964			5,566	4,995		

公立高等学校の不登校

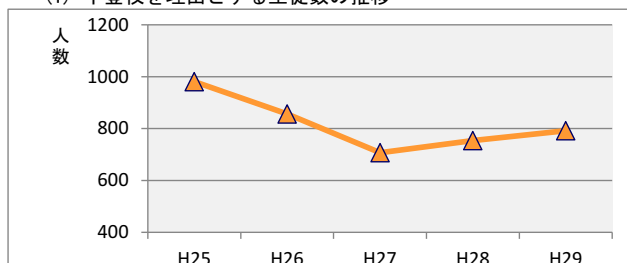
1 公立高等学校における理由別長期欠席者数（上段）と1,000人当たりの理由別長期欠席者数（下段）

年度	在籍数（人）	不登校	うち90日以上欠席	経済的理由	病気	その他	計
平成29年度	97,607 (1,000人当たり)	792 8.1	281 2.9	13 0.1	317 3.2	92 0.9	1,214 12.4
平成28年度	99,605 (1,000人当たり)	754 7.6	293 2.9	10 0.1	271 2.7	112 1.1	1,147 11.5

※年間30日以上欠席した者

2 公立高等学校における不登校の状況

(1) 不登校を理由とする生徒数の推移



<前年度との比較>

○人数～前年度に比べ、38人増加している。
○1,000人当たり～前年度に比べ、0.5ポイント増加している。

【内訳】

全日制 382人（4.1）（前年度335人（3.5））
定時制 410人（102.4）（前年度419人（99.8））

(2) 不登校生徒数（上段）と1,000人当たりの不登校生徒数（下段）

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
不登校生徒数	981	856	707	754	792
1,000人当たり	9.2	8.2	6.9	7.6	8.1

※年間30日以上欠席した者のうち、主たる理由が「不登校」の者の数

3 学年別不登校生徒数

	不登校生徒数					
	平成29年度			平成28年度		
	人数	1,000人当たり	構成比	人数	1,000人当たり	構成比
第1学年	152	6.4	19.2%	147	5.7	19.5%
第2学年	109	4.6	13.8%	108	4.2	14.3%
第3学年	47	2.0	5.9%	63	2.4	8.4%
第4学年	5	11.2	0.6%	5	12.0	0.7%
単位制	479	18.3	60.5%	431	20.4	57.2%

4 不登校の要因

(1) 全日制と定時制の合計

区分 分類	分類別 生徒数 (a)	学校に係る状況								家庭に係る 状況	左記に該当 なし
		いじめ	ぐ友い る人じ 問閉め 題係を を除め く	題係教 を職員 ぐとの 問開	学業の 不振	安進 路に係 る不	不部ク 適活ラ 応動ブ 等活動 への	題等学 を校の めぐき るま 問り	不学入 適進 応進 級転 時編 の入		
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	146	0 0.0%	88 60.3%	4 2.7%	16 11.0%	4 2.7%	1 0.7%	4 2.7%	16 11.0%	24 16.4%	7 4.8%
	18.4%	—	61.1%	40.0%	14.2%	5.8%	11.1%	26.7%	15.0%	12.6%	7.8%
「あそび・非行」の傾向がある。	71	0 0.0%	7 9.9%	1 1.4%	5 7.0%	1 1.4%	1 1.4%	6 8.5%	20 28.2%	18 25.4%	2 2.8%
	9.0%	—	4.9%	10.0%	4.4%	1.4%	11.1%	40.0%	18.7%	9.5%	2.2%
「無気力」の傾向がある。	200	0 0.0%	14 7.0%	0 0.0%	38 19.0%	13 6.5%	0 0.0%	3 1.5%	28 14.0%	59 29.5%	9 4.5%
	25.3%	—	9.7%	0.0%	33.6%	18.8%	0.0%	20.0%	26.2%	31.1%	10.0%
「不安」の傾向がある。	194	0 0.0%	27 13.9%	5 2.6%	46 23.7%	43 22.2%	3 1.5%	0 0.0%	35 18.0%	31 16.0%	22 11.3%
	24.5%	—	18.8%	50.0%	40.7%	62.3%	33.3%	0.0%	32.7%	16.3%	24.4%
「その他」	181	0 0.0%	8 4.4%	0 0.0%	8 4.4%	8 4.4%	4 2.2%	2 1.1%	8 4.4%	58 32.0%	50 27.6%
	22.9%	—	5.6%	0.0%	7.1%	11.6%	44.4%	13.3%	7.5%	30.5%	55.6%
計(b)	792	0	144	10	113	69	9	15	107	190	90
	100.0%	0.0%	18.2%	1.3%	14.3%	8.7%	1.1%	1.9%	13.5%	24.0%	11.4%

(注1) 「分類」については、「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した児童生徒全員につき、主たる要因を一つ選択。

(注2) 「区分」については、複数回答可。「分類」で回答した要因の理由として考えられるものを「学校に係る状況」「家庭に係る状況」より全て選択。なお、学校及び家庭に係る状況に当てはまるものがない場合は、「左記に該当なし」を選択する。

(注3) 「家庭に係る状況」とは、家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不和等が該当する。

(注4) 中段は「分類別児童生徒数(a)」に対する割合。下段は「計(b)」に対する割合。

(2) 全日制

区分 分類	分類別生徒数 (a)	学校に係る状況								家庭に係る状況	左記に該当なし
		いじめ	ぐ友い る人 間関 係を 除め く	題係教 を職 員と るの 間関	学業 の不振	安進 路に 係る不	不部ク 適活ラ 応動プ 等活動 への	題等学 を校の めぐる ま問り	不学入 適進 応進級 転編 時の入		
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	109	0	65	3	14	2	1	4	13	20	5
	28.5%	—	60.7%	50.0%	17.1%	4.0%	11.1%	36.4%	24.5%	23.0%	9.4%
「あそび・非行」の傾向がある。	10	0	2	1	0	0	1	3	0	5	0
	2.6%	—	1.9%	16.7%	0.0%	0.0%	10.0%	30.0%	0.0%	50.0%	0.0%
「無気力」の傾向がある。	80	0	13	0	23	7	0	3	13	23	8
	20.9%	—	12.1%	0.0%	28.8%	8.8%	0.0%	3.8%	16.3%	28.8%	10.0%
「不安」の傾向がある。	127	0	23	2	41	38	3	0	22	21	16
	33.2%	—	21.5%	33.3%	50.0%	76.0%	33.3%	0.0%	41.5%	24.1%	30.2%
「その他」	56	0	4	0	4	3	4	1	5	18	24
	14.7%	—	3.7%	0.0%	4.9%	6.0%	44.4%	9.1%	9.4%	20.7%	45.3%
計(b)	382	0	107	6	82	50	9	11	53	87	53
	100.0%	0.0%	28.0%	1.6%	21.5%	13.1%	2.4%	2.9%	13.9%	22.8%	13.9%

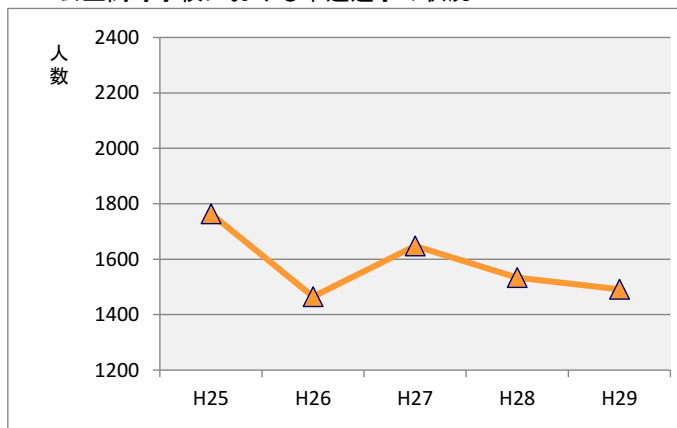
(2) 定時制

区分 分類	分類別生徒数 (a)	学校に係る状況								家庭に係る状況	左記に該当なし
		いじめ	ぐ友い る人 間関 係を 除め く	題係教 を職 員と るの 間関	学業 の不振	安進 路に 係る不	不部ク 適活ラ 応動プ 等活動 への	題等学 を校の めぐる ま問り	不学入 適進 応進級 転編 時の入		
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	37	0	23	1	2	2	0	0	3	4	2
	9.0%	—	62.2%	2.7%	5.4%	5.4%	0.0%	0.0%	8.1%	10.8%	5.4%
「あそび・非行」の傾向がある。	61	0	5	0	5	1	0	3	20	13	2
	14.9%	—	13.5%	0.0%	16.1%	5.3%	—	75.0%	37.0%	12.6%	5.4%
「無気力」の傾向がある。	120	0	1	0	15	6	0	0	15	36	1
	29.3%	—	0.8%	0.0%	12.5%	5.0%	0.0%	0.0%	12.5%	30.0%	0.8%
「不安」の傾向がある。	67	0	4	3	5	5	0	0	13	10	6
	16.3%	—	10.8%	75.0%	16.1%	26.3%	—	0.0%	24.1%	9.7%	16.2%
「その他」	125	0	4	0	4	5	0	1	3	40	26
	30.5%	—	10.8%	0.0%	12.9%	26.3%	—	25.0%	5.6%	38.8%	20.8%
計(b)	410	0	37	4	31	19	0	4	54	103	37
	100.0%	0.0%	9.0%	1.0%	7.6%	4.6%	0.0%	1.0%	13.2%	25.1%	9.0%

【割合の計算例】 中段: $\frac{26}{125} \times 100 = 20.8\%$ 下段: $\frac{26}{37} \times 100 = 70.3\%$

公立高等学校の中途退学

1 公立高等学校における中途退学の状況



<経年変化>
平成27年度以降減少している。

<前年度との比較>
○人数 ~前年度に比べ、43人減少している。
○在籍比~前年度と同じである。

【内訳】
全日制 820人（0.9%）（前年度 750人（0.8%））
定時制 321人（8.0%）（前年度 327人（8.4%））
通信制 350人（12.0%）（前年度 457人（14.5%））

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
中途退学者数	1,764	1,465	1,648	1,534	1,491
中途退学率	1.6%	1.4%	1.6%	1.5%	1.5%

2 学年別中途退学者数

	中途退学者数								
	平成29年度			平成28年度			平成27年度		
	人数	中退率	構成比	人数	中退率	構成比	人数	中退率	構成比
第1学年	458	1.9%	30.7%	690	2.7%	45.0%	746	2.9%	45.3%
第2学年	320	1.4%	21.5%	320	1.3%	20.9%	356	1.4%	21.6%
第3学年	120	0.5%	8.0%	214	0.8%	14.0%	235	0.9%	14.3%
第4学年	11	2.4%	0.7%	70	6.5%	4.6%	45	3.8%	2.7%
単位制	582	2.0%	39.0%	240	1.0%	15.6%	266	1.0%	16.1%

3 中途退学理由（8項目の主たる理由から選び回答）

順位	中途退学理由					
	平成29年度		平成28年度		平成27年度	
①	学校生活・学業不適応	34.5%	学校生活・学業不適応	31.6%	進路変更	34.7%
②	進路変更	29.3%	その他の理由	27.3%	学校生活・学業不適応	32.3%
③	その他の理由	20.5%	進路変更	26.2%	その他の理由	13.9%
④	病気がけが死亡	5.1%	病気がけが死亡	4.7%	病気がけが死亡	5.6%
⑤	家庭の事情	3.7%	家庭の事情	4.2%	問題行動等	5.5%
⑥	問題行動等	3.6%	学業不振	3.4%	家庭の事情	4.4%
⑦	学業不振	3.0%	問題行動等	1.9%	学業不振	3.3%
⑧	経済的理由	0.3%	経済的理由	0.8%	経済的理由	0.3%

※「その他の理由」とは、理由が不明なもの、理由が複合していて分別不可能なもの